

# 令和7年度 心のネットワーク 特別号

## 大松だより

発行日 令和8年3月5日  
徳島市 大松小学校

学校評価に関わるアンケートでは多くのご意見をいただき、ありがとうございました。学校で実施した子ども達のアンケートとともに結果のご報告をいたします。今回の結果をもとに、学校評価を行い、保護者の皆様と連携し、来年度からの学校運営に生かしてまいります。今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

### 学校評価結果

学校経営や教育活動に児童や保護者の声を反映するために、アンケート(学校評価)を実施しました。その結果は次のとおりです。

①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④全く思わない  
肯定的回答(①+②) 単位(%)

### 令和7年度 学校生活についてのアンケート (保護者用)

①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④全く思わない

昨年度より肯定的回答のポイ

番号	ことがら	①	②	③	④	肯定的回答	R6
1	児童は楽しく学校生活を送っている。	46.7	44.6	7.6	1.1	91.3	
2	学校は、学校だよりやHP、メール配信等で適切に情報提供を行っている。	40.2	51.1	8.7	0.0	91.3	↑ 89.7
3	学校は、基礎的・基本的な学力が身につくような家庭学習を推進している。	16.3	65.2	18.5	0.0	81.5	87.7
4	学校は、学年に応じてタブレット端末や電子黒板等のICTを活用した学習の推進を図っている。	26.1	51.1	20.7	2.2	77.2	82.5
5	学校は、友達と協力して生活しようとする子どもを育てている。	30.4	57.6	12.0	0.0	88.0	95.2
6	学校は、子どもの人権教育を推進している。	25.0	62.0	12.0	1.1	87.0	90.9
7	児童は、すすんであいさつできている。	20.7	35.9	41.3	2.2	56.6	↑ 56.4
8	児童は、交通ルール(飛び出し禁止、青信号の遵守、ヘルメットの着用等)を守っている。	19.6	58.7	20.7	1.1	78.3	↑ 68.2
9	災害時の児童引き渡し(「緊急時引き渡しカード」の使用)方法等について子どもと確認できている。	18.5	53.3	27.2	1.1	71.8	↑ 67.9
10	児童は、家族や友達のためになることに取り組んでいる。	27.2	60.9	12.0	0.0	88.1	↑ 86.1
11	児童は、思いやりのある言動がとれている。	34.8	56.5	8.7	0.0	91.3	↑ 86.5
12	児童は、外で遊んだり、体を動かしたりするなど、運動できている。	27.2	44.6	27.2	1.1	71.8	82.2
13	学校は、好き嫌いなくバランスのよい食事がとれるよう食育に取り組んでいる。	26.1	62.0	10.9	1.1	88.1	↑ 75.0

### 令和7年度 学校生活についてのアンケート (児童用)

①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④全く思わない

昨年度より肯定的回答のポイントが上昇している項目に↑

番号	ことがら	①	②	③	④	肯定的回答	R6
1	学校生活は楽しい。	57.8	35.2	4.6	2.4	93.0	↑ 91.6
2	ノートやタブレット端末等を用い、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。	37.2	40.3	16.8	5.6	77.5	84.4
3	授業中に先生や友達の話をよく聞いている。	37.5	48.5	8.4	5.6	86.0	88.7
4	授業中に自分の考えをまとめ、友達と伝え合っている。	35.8	38.2	22.6	3.5	74.0	79.1
5	忘れずに宿題をしている。	58.6	28.8	11.3	1.3	87.4	↑ 83.9
6	自分のよいところや友達のよいところが言える。	49.6	36.1	11.9	2.4	85.7	↑ 84.4
7	困っている友達がいたら助ける。	58.6	36.8	4.6	0.0	95.4	↑ 93.8
8	自分からすすんであいさつができている。	49.7	32.0	15.6	2.7	81.7	84.4
9	学校のきまりや約束、週目標などを守って生活ができている。	37.1	47.8	14.0	1.1	84.9	↑ 83.4
10	交通ルールが守れている。(道路の右がわ(安全な側)を1列、左右をたしかめ、ヘルメットを着用など)	53.2	35.8	9.9	1.1	89.0	↑ 80.3
11	学級の話合いや、係の仕事、委員会の仕事などに取り組むことができている。	48.7	38.4	10.8	2.2	87.1	87.8
12	自分でめあてをもって、それに向けてがんばることができている。	44.4	37.6	15.1	3.0	82.0	↑ 81.0
13	家の人、友達、先生など、周りの人に対して、その人のことを思いやった話し方や行動をしている。	39.2	49.2	10.5	1.1	88.4	↑ 86.3
14	道徳の時間に勉強したことを自分の生活に生かすことができている。	39.5	44.9	14.2	1.3	84.4	↑ 83.7
15	外で遊んだり、体を動かしたりすることが好きだ。	60.2	24.2	11.6	4.0	84.4	85.2
16	早寝・早起きをしている。	34.4	38.7	20.4	6.5	73.1	78.0
17	朝食を食べて登校できている。	76.9	17.5	4.6	1.1	94.4	
18	給食では、できるだけすききらいせずに、バランスよく食べることができている。	51.6	28.5	16.7	3.2	80.1	81.8

## 令和7年度 学校評価 アンケート結果から考えられる今後の取組

### 学校目標

「人と自然を大切にし、未来をひらく知恵・心・体をもった子どもの育成」

### 重点目標

- ①確かな学力の育成
- ②豊かな心の育成
- ③健康な心と体の育成
- ④個に応じた特別支援教育・生徒指導の充実
- ⑤保護者・地域から信頼される学校
- ⑥協働体制の強化と研修の充実

### ①確かな学力の育成

- 鳴門教育大学、徳島県教育委員会と協働し、2年間学校力向上コラボレーション事業に取り組んできた。昨年度は、学習目標（めあて）・内容を意識して学習できる児童が増加した。児童の表現力・言語力・学習への意欲等が向上した等の成果があり、今年度は、子どもたちが学ぶ楽しさを感じる授業をめざし、めあてと振り返りを活かした授業改善に取り組んだ。教職員が互いの授業を参観したり、研究授業や授業研究会を実施したりすることにより、児童は「できなかったことができるようになった。」「進んで発表するようになった。」「自分の成長を感じる。」と振り返っていた。教職員からも「学習に意欲を示す児童が増加した。」「児童が書く振り返りの内容が深くなった。」「学んだことを日常生活と結びつけている。」等の声が聞かれた。
- 「授業中に先生や友達の話をよく聞いている」児童は86%で、児童が真面目に授業に取り組んでいることがうかがえる。今後は、聞いたことをもとに、自分の考えを表現したり深めたりしていく力を育てたいと考える。
- 「ノートやタブレットを用い、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」児童は77.5%、「学校は学年に応じてタブレット端末や電気黒板等のICTを活用した学習の推進を図っている」と答えた保護者は77.2%であった。令和8年1月にタブレットがiPadに変わり、児童・教職員からは「つながりやすく、使いやすくなった。」という声が聞かれる。授業の中で児童の考えを広げたり深めたりするための効果的な利活用について、今後検討していく。
- 家庭学習について「忘れずに宿題をしている」児童は87.4%、「基礎的・基本的な学力が身につくような家庭学習をしている」という保護者の回答は81.5%であった。家庭学習でもタブレットを用いて、ドリル学習だけでなく、児童が自ら考え、内容や方法を選択して学びを深める利活用について検討していく。

### ②豊かな心の育成

- 体験的活動や異学年交流等を通し多面的に自分のよさに気づいていく活動やきらきらの木を掲示し全校でよいところを見つける活動を行っている。「自分や友達のよいところが言える」児童は85.7%、「困っている友達がいたら助ける」児童は95.4%で、肯定的評価をした児童が昨年度より増加した。今後も好ましい行動を認め、価値付けを行うことで、思いやりの心がさらに育っていくよう指導していきたい。
- 「家の人や友達、先生など、周りの人に対して、その人のことを思いやった話し方

や行動をしている」児童は88.4%、「子どもたちは思いやりのある言動がとれている」と答えた保護者は91.3%で、肯定的評価の数値は上がっている。しかし、他者に対する言葉遣いや態度が気になるという声も聞かれる。言葉は重要なコミュニケーションツールであり、丁寧な言葉を使うことは、他者への思いやりにつながることを伝え、適時適切な指導、継続的な指導を行っていききたい。

- 「あいさつができています」と答えた児童は81.7%だったが、「子どもたちはすすんであいさつができています」と答えた保護者は56.6%であった。社会生活を送るうえであいさつは欠かせない。家庭・地域・学校が一体となり、あいさつの声が響く学校、地域にしていきたい。児童会からのよびかけ、「あいさつの日」等の取り組みを進め、あいさつの習慣化を図っていく。

### ③健康な心と体の育成

- ケガをして保健室に来室する児童は多い。子どもはいろいろな遊びや運動を通し体幹を鍛えたり友達との関わり方を学んだりする。「外で遊んだり体を動かしたりすることが好き」と答えた児童は84.4%であったが、休み時間の過ごし方を見ると運動への取組に二極化が見られる。2月に体育委員会が「運動しようよ」週間を実施したところ、さまざまな学年の児童が昼休み体育館で、ボール運動を楽しんでいた。徳島市のチャレンジランキングに挑戦した学級もある。体育の授業や外遊びで運動の楽しさを体感させるとともに、家庭への啓発もしていきたい。
- 「朝ごはんを食べて登校できている」児童は94.4%、「給食ではできるだけ好き嫌いせずに、バランスよく食べることができている」児童は80.1%であった。年度初めの給食の残食は1日平均7Lほどで、10Lを超える日もあった。発達段階に応じた摂取量を示し、苦手なものもバランスよく食べようと担任が声かけをし各学級で取り組んだところ、2月の残食量は1日平均2L程に減少している。次年度もよりよい給食指導について学校全体で共通理解を図り、取り組んでいく。
- 「早寝・早起きをしている」児童は73.1%である。このことから児童の3割が睡眠を中心とした生活習慣に課題を抱えていることがわかる。心も体も成長している子どもたちは、よりよい睡眠をとることができる生活習慣を身に付けることが大切である。ほけんだより等を活用し、家庭と連携を図って生活習慣改善に取り組んでいく。

### ④保護者・地域から信頼される学校

- 「学校生活は楽しい」と答えた児童は93%で昨年度を上回った。今後もよりわかる授業、児童が意欲的に取り組む授業、安心して生き生き活動に取り組める集団づくりをさらに推進していく。児童は、勝占認定こども園や地域の方との連携・交流により、コミュニケーション力や主体性、協調性などの力を身に付けている。また、学校・地域・家庭の連携をより進め、児童の学校生活の充実のため物的・人的資源の開発に努めるとともに、6年間の成長を見通したカリキュラム・マネジメントに取り組む。
- 1月に防災に関する職員研修を実施し、地震発生時の大松小学校の被害想定、災害時への備えや避難訓練の取り組み方等を学んだ。学んだことをもとに、さまざまな災害を想定した避難訓練等、児童が主体的に判断、行動し振り返る防災教育に取り組む。また、災害時に保護者への児童引き渡しがいよりスムーズにできるようマニュアルを見直すとともに保護者への啓発を図っていく。
- 保護者や地域の方から「交通マナーが悪い」「数人が道に広がって歩いている」「登校時、土手で子どもを降ろしているのが危ない。」等のご意見を何件かいただいている。交通安全、社会のルールを守る態度を育てるため、教職員が共通理解を図り、学年や発達段階に応じ繰り返し指導していくとともに、家庭・地域が連携し規範意識の育成に取り組んでいきたい。
- 登下校の際、西門を開放してほしいという意見をいただいた。体育館西側は家が建築されつつあり、交通量が増えることが想定される。交通安全対策ならびに防犯対策の観点から、通常の登下校はこれまでと同様に正門を使うことをご理解・ご協力をいただきたい。